

# まもなく梅雨時期です。災害発生に備えましょう

▽問い合わせ 庶務係 (☎2223・3572)

## 知っていますか？

自然災害というと地震を想像する人が多いですが、日本に毎年大きな被害をもたらすのは、台風や梅雨による水害が多いことを忘れてはなりません。

### 【過去の災害】

昭和28年6月25日から29日にかけて、活発な梅雨前線の影響で遠賀川が決壊しました。多くの民家が浸水・倒壊し、祇園橋も流出しました。また、福岡県は、平成29年以降5年連続で「大雨特別警報」が出され、県南を中心に大雨の被害が出ています。

## 災害対策のポイント

①災害発生時の危険な場所を知る  
ハザードマップで、災害の恐れがある危険な場所を確認し、避難する必要の有無を確認しましょう。

災害によっては自宅の2階に避難することもあります。

※ハザードマップは、この広報あしやと一緒に無料配布します。また、役場2階、総務課窓口でも配布しています。

### ②備蓄品などの準備・点検

災害に備え、非常時用備蓄品や非常時持ち出し品の準備・点検をしましょう。備蓄食糧の賞味期限の確認や懐中電灯の電池の交換を行きましょう。



### ③避難所の場所を確認

災害発生時に滞在する指定避難所は、中央公民館と総合体育館です。災害規模や避難者数にあわせて、ほかの指定緊急避難場所（学校や公民館など）を開設することもあります。



△中央公民館 (中ノ浜)



△総合体育館 (山鹿)

### ④気象情報・災害情報入手

いち早く情報入手することが大切です。

◇テレビのデータ放送（dボタンなど）

◇インターネット

◇スマートフォンでの防災速報アプリ

◇登録（無料）が必要です。

◇防災メールまもるくん

◇登録（無料）が必要です。



△Yahoo! 防災アプリ



△防災メールまもるくん

### ⑤避難情報の入手

町では、災害情報や気象情報などに応じて、避難情報や避難所開設情報を発表します。これらの情

報は、戸別受信機や緊急速報メールなどから皆さんに伝達されます。

危険な場所にいる人は、避難情報にあわせて行動を取りましょう。

**警戒レベル3「高齢者等避難」**  
または

**警戒レベル4「避難指示」**  
必ず避難行動をとってください

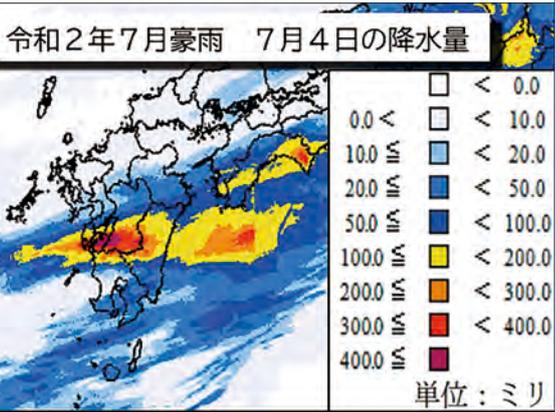
## 設置していますか？

災害時の気象情報や避難情報などを、皆さんに速やかに正確に伝えるため、戸別受信機を各戸に無償配布（貸与）しています。

災害情報や行政情報、Jアラートからの緊急情報、住んでいる自治区からのコミュニティ情報などが音声と文字で配信されます。

受信機をまだ箱から出していない人は、受信できるように設置を行ってください。設置方法がわからない人は、庶務係まで問い合わせてください。

## ②線状降水帯



△気象庁ホームページより

低気圧や前線の南側で、暖かく湿った空気が収束し発生します。この風の流れが変わらないと同じところで積乱雲が発生するため集中豪雨となり、比較的狭い範囲で土砂災害や洪水が発生することがあります。芦屋町に「顕著な大雨に関する情報」が発表されたら、ただちに安全な所へ避難しましょう。

## ①夏場の積乱雲



非常に発達したモクモクとした雲で、雲の下の方は黒く不気味な感じもします。積乱雲の下では強い雨と風があり、雷を伴います。一般的に一つの積乱雲は、数時間で消滅しますが、同じところで次々と発生することがあります。

雷の音が聞こえたら、大きな木の下は危険です。屋内や車の中に避難しましょう。

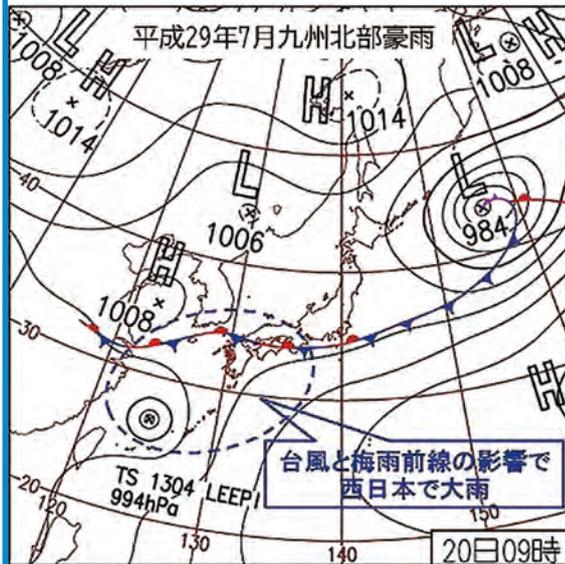
## ④台風



△気象庁ホームページより

多くの台風は、夏から秋にかけて暖かい南の海上で発生します。暴風雨を伴い北上し、日本に上陸することもあります。規模の大小はありますが、中心付近はもちろんのこと、時にはかなり遠くでも暴風雨となることがあります。また、台風が遠い南海上にあっても太平洋側では波が高くなり、前線が日本付近にあると前線活動が活発化することもあります。数日前から進路予想が出ますので、進路によっては、レジャーや帰省を中止することも大切です。

## ③梅雨



△気象庁ホームページより

夏の暖かい空気と冬の冷たい空気がぶつかることで前線が発生し、春から夏に季節が変わるとき、日本にまとまった雨をもたらします。近年の梅雨は豪雨となることが多く、特に梅雨末期の豪雨は広い範囲で大きな災害となることがあります。線状降水帯を伴うこともあり、梅雨末期は特に気象情報に注意しましょう。